

6 年「五十五年目の恩返し」

展開例

- 主題**…先生の願いや意図が明確になるよう 1 文で表します
- 導入**…導入の後、どこかで、導入に関わる問いや話を入れます。そうすることで授業に一貫性が出ます
- 展開前段**=立場発問…ある人の立場を取得して共感する学び
- つなぎ発問①**…教材の学びから、児童生徒の実感に即した見方や考え方に広げ、展開後段の問いを多角的な視野から考えることができるようにする
- 展開後段**=主題発問…道徳的価値について考えを深める学び
道徳的価値の「捉え」「よさ」「大切さ」「態度」「意欲」を考えさせる
- つなぎ発問②**…展開後段で出された道徳的価値への考えを具体化したり、生活とのつながりを実感できたりする問いや話を入れ、終末の振り返りの手がかりにする
- 終末**=主体発問…自己の生き方について考える学び
学習から学んだことを鏡として、これまでの自分を見つめて、自分のよさを見つけたり、よりよい自分の姿を想像したりする観点をもって振り返る

振り返り…ウェルビーイングの視点を取り入れた観点を示して振り返らせる

※振り返りの 4 観点は、次のようになっていますが、ABCD によって書く観点数が異なります。

- ・これまでできていること、満足していること（よさ・自己肯定感）
- ・もっとやってみたいこと、もっとできそうなこと（ポジティブ・目的意識）
- ・誰かといっしょにやりたいこと、誰かといっしょならもっとできそうなこと（他者との協働）
- ・これから、なりたい自分（自己実現への期待）

※これに合わせて、低中高学年別、また ABCD 別にした「振り返りシート」も作成していますのでお問い合わせください。

※すべての観点について書かせるか、先生がいくつか指示をして書かせるか、または、子どもが選んだものを書かせるか、お決めください。

先生の、児童生徒に一番考えさせたい願いや意図（主題）に基づいて、よいように授業をおつくりください

主題	感謝の気持ちを持ち続け、広めよう
導入	今日の学習は、第 21 回「五十五年目の恩返し」です。「22 のとびら」の 8 番「支え合いの大切さを考えて、感謝する」です。「道徳みちあんない」では、○△？のどれを付けていますか
展開前段	○押し寄せた多くのユダヤ人を見て、杉原は、どんなことを思ったでしょう ○杉原は、どんなことを思いながら、ビザを書き続けたのでしょうか
つなぎ発問①	○ユダヤ人の人たちは、子や孫に、どんなことを言い伝えたのでしょうか ○阪神淡路大震災が起こったことを聞いて、ユダヤ人の人たちは、どんなことを思ったでしょう ○私たちが、感謝の気持ちを表さなかったり、感謝の気もちが薄れてしまったりすることがあるのは、どうしてでしょう
展開後段	どんな思いや気もちをもっていると、感謝の気持ちを持ち続けることができるのでしょうか
つなぎ発問②	感謝の気もちがあると、誰かに何かよいことをしたくなりますね。すると、また感謝の気もちが伝わる。そうして、どんどんと広がっていくといいですね ・今日の学習から、分かったこと、心に残しておきたいことはどんなことですか① ・①のことで、もうすでに、やっているよということはどうなことです

	・①のことをもとに、これから、やっていきたいことはどんなことですか では、振り返りを書きましょう
振り返り	

※「○△？」は、第1回「道徳が始まるよ」で「道徳みちあんない」に書き込んだものです